



いぼとり地蔵

いぼとり地蔵

昔々、福田の上条地区に庄屋の善衛門という人が住んでおりました。その善衛門の愛娘は村中一の器量よしと言われていましたが、困ったことにかわいい指に大きなイボができて、ご飯を食べるにも苦労しておりました。

そんなある晩のこと、善衛門の枕元にお地蔵さんが立ち「雨上がりに畑の角にある地蔵を拝み、そこに溜まった雨水を汲んでイボにかけなさい。」と教えてくれた夢を見ました。

早速、善衛門は雨上がりにお地蔵さんの溜まった雨水を愛娘の指にかけてやりました。すると、どうでしょう…イボはすっかりなくなり元の美しい指にもどりました。

善衛門は愛娘とともに、畑の角にあるお地蔵さんをいつまでもいつまでも感謝し大切にしました。

村人たちはいつしか「いぼとり地蔵さん」と呼んで拜むようになったと伝えられています。今もだれとはなしに、いつも花一輪供えてあります。

《参考》福田の民話